

鬼	北上市立	館
だ	の	り
第28号		



福豆鬼節分会（鬼婆戦）



❀❀ おかげさまで入館者50万人達成! ❀❀

平成19年10月28日、鬼の館は皆様に見守られて開館以来入館者50万人を達成いたしました。

50万人目となられたのは、京都府長岡京市の畑満弥さん（69）妻の菊枝さんとともに2泊3日の旅行ツアーに参加し、初めて訪れた東北で幸運を射止めました。鬼剣舞面の記念品等が贈られ、「突然のことでびっくりした。発展を祈ります。」と畑さん。

今後も観光客の方々、また地域の方々に喜んでいただけるような博物館を目指して参りますのでどうぞよろしく願いいたします。

福豆スナッフ

2/3 (日) 今年も福豆鬼節分会 (北上市教育委員会/岩崎地区自治振興協議会) が行われました。



◀岩崎新田小学校の生徒による「百姓踊り」田おこしから収穫まで



節分会に向けて鬼剣舞の練習を重ねてきたわんぱく講座のこどもたち。鬼の館館長から終了証書を受け取り最後の講座となりました。



ゲーム「鬼婆戦」かなりの白熱ぶり!優勝した親子には食器洗い乾燥機と鬼婆家族の名誉が与えられました。



「福はうち!鬼もうち!」福豆まき



おしるこやとん汁、創作もち料理などのふるまいには長蛇の列が



今年初めての試み、雪像コンテスト



福もちまき。市民の開運を祈念して約千個のもちがまかれ節分会終了となりました。



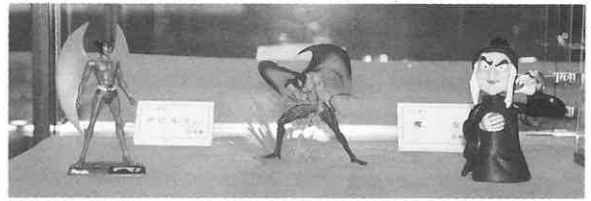
平成19年度特別展示レポート



特別展 「匠の伝承展」

12/15(土)～2/17(日)

北上市内で活動する匠の作品を集めた特別展。赤平さんと高橋さんの陶芸、原さんの剣舞面や般若面等、教員退職後、教え子に感謝の気持ちを込めながら仏像を彫り続け、現在ではその数5000体を超えるという菊池さんの彫刻作品、そして、昨年74歳で亡くなられた北上地区最後の南部系けし職人、佐々木覚平さんの遺作。洗練された匠の技が光る展示となりました。



特別展 「魔神・悪魔とされる鬼神たち～光と陰の主人公」

10/6(土)～12/2(日)

「魔神・悪魔」とよばれるものは一般的には恐れられる対象ですが、畏敬の念をも併せ持つ存在であり日本の「鬼」の考え方とどこか通じるころがあります。今回はインドやメキシコ等13カ国の仮面を取り上げましたが一つの仮面からさまざまな精神世界が伝わってきます。この他、デビルマンや魔女の宅急便など子どもたちにも馴染み深いアニメに登場する悪魔や魔神も紹介されました。

特別展 「力丸館長追悼展～化学者の目と仮面文化～」

2/24(日)～4/6(日)

2月に亡くなられた力丸館長を偲び、特別展が行われています。館長が各国を歩いて収集した仮面のコレクションは450点にもぼります。それらを一挙に公開し、また生前の館長の姿も合わせて展示いたしました。

"故力丸光雄館長を偲ぶ"

副館長 高橋 勝

去る2月7日午前4時18分岩手医科大学病院にて享年79歳で館長が死去されました。

2月3日の「福豆鬼節分会」に元気な姿で出席し、わんぱく講座の閉講式に受講生に挨拶されたのが最後となりました。

故力丸光雄館長のご逝去を悼み謹んでご冥福をお祈りいたします。

突然の死去の報に接し職員一同悲しみに包まれております。

館長には、平成4年～2年間「鬼と平和の里づくり推進委員」、平成6年～平成13年まで7年間「鬼の館協議会会長」、そして平成13年からは「鬼の館二代目館長」として6年間、鬼の館に深く関わり事業運営に長きに亘りご尽力をいただきました。

また、昨年10月には、初代館長の故門屋光昭先生もご逝去になり、鬼の館にとって一度に偉大なる両館長を失うこととなり、途方に暮れているところであります。

両館長には、旧和賀町時代に、第4次和賀町総合開発計画の重点プロジェクトとして「鬼と平和の里づくり事業」が制定されたのを契機にふるさと創生事業を取り入れ広くアイデアを募集し「鬼の館」をシンボル施設として平成6年6月1日に鬼のテーマ博物館としての開館に大きくご貢献していただきました。

特にも、他の博物館で類のない障害を持つ来館者の目線にたった展示と、楽しみ遊びながら「見る・触る・学ぶ・知る・創る」を掲げ、その理念を私たちに熱く力説され最後までその方針を貫き通して参りました。

私どもは、両館長から学び得たこと、そして残された貴重な財産と意志を引き継ぐべく責任を果たしていかなければと決意を新たにいたしております。

どうか今後とも鬼の館に対し、更なるご指導とご教示賜りますようよろしくお願い申し上げます。

合 掌





❖ 鬼学講座 ❖

今年「葬送儀礼と生者の民俗」と題して行われ、奥州市黒石寺の藤波洋香住職による「仏法から見る死の儀礼儀式」で今年度の講座は終了となりました。藤波住職は「"お布施"は"喜捨"と言い、"喜んでお金を捨てる"ということなのです。欲をなくすための修行です。」などユーモアたっぷりの話し振りで受講生を楽しませながらわかり易くお話されました。その後閉講式が行われ、受講生は修了証書を受け取りました。

★ 鬼剣舞ロボットお目見え

黒沢尻工業高校の生徒が鬼剣舞を踊るロボットを開発し、鬼の館で公演を行いました。

ロボットは岩崎鬼剣舞保存会長も見守る中、曲に合わせて見事に踊り大きな拍手を受けました。



★ のぼり旗お披露目

芸能公演などのイベントを彩るのぼり旗が完成し福豆鬼節分会にてお披露目いたしました。市内の温泉施設やタクシー会社等35社の協賛をいただきました。70本の旗を製作することができました。ご協力いただきました皆様には心より感謝申し上げます。



平成20年度の行事予定

❖ 特別展・企画展 ❖

- ・ 開放事業 4月下旬～7月中旬
- ・ 企画展22「大ちゃんの鬼ごっこ」 7月下旬～9月中旬
(独特の鬼を描く画家の絵画作品を展示いたします。)
- ・ 「鬼の水・良薬と毒薬」 10月初旬～12月初旬
- ・ 「匠の伝承展」 12月中旬～2月下旬
- ・ 収蔵資料展 3月中旬～4月中旬

❖ 鬼の館芸能公演 4月～10月

(毎月第4日曜日に開催します。鑑賞無料)

❖ 大乘神楽大会 日時未定 (鑑賞無料) ❖ 福豆鬼節分会 2月初旬

❖ わんぱく講座 5月～2月 ❖ 鬼学講座 6月～10月



★ワークショップ★

今年は、親子で「しめ飾り作り」や「切り絵」を楽しみました。ワラを打ち、縄をない、自分で作ったミニ張り子や松、梅、水引などで飾り上げました。切り絵の講師には紫波町在住のペーパーバイクアーティスト、石田義信さんをお招きしてポップでかわいらしい鬼剣舞の切り絵が完成。石田さんは「ピンク色の空があってもいいじゃない」などと、大人の



固定観念を子どもたちに押し付けないように保護者に注意しながら、子どもたちは好きな色を選び、さまざまな作品が出来ました。額に入れた自分の作品をみんなうれしそうに眺めていました。

平成19年度収蔵資料

堀込 進様	カマド神
鈴木 明美様	清酒 「黒森神楽」
	上選酒 「黒森大権現」
	絵馬 「鬼の念仏」
	鬼面 (赤鬼)
	清酒 「うしおに」
	焼酎 「いよ牛鬼」
	焼酎 「閻魔」
小谷津 仁様	清酒 赤鬼青鬼ボトル
	鬼ヶ島 鬼夙徳利
高橋 幸輝様	神楽面 「中將面」
	神楽面 「小面」(若女)
	神楽面 「荒神面」
財政課より	創作紙人形群像 「鬼剣舞」
所管 替え	刀剣 (軍刀)
石川 茂夫様	鍾馗絵のぼり旗
沼倉 孝彦様	御酒ボトル 「古今東西鬼ころし」
佐藤 克英様	御酒紙ボトル 「但馬杜氏鬼ころし」
宗形 慧様	鬼まつり写真

できごとOni Museum
～新聞の見出しより～

- 勇壮な舞 観客魅了芸能公演がスタート (岩手日日4.23)
- 縄文から近世 古美術一堂 高橋さん (奥州胆沢)
- 所蔵品展 (岩手日報5.2)
- こどもの日挑戦・体験・輝く瞳 ～わくわくイベント～ (岩手日日5.6)
- 阿面に挑戦したい 面彫りの魅力に憑かれた
- 佐藤雅紀さん (週刊きたかみ4.28)
- 空と緑と水を背景に 錦秋湖畔ステージこけら落とし (岩手日日7.2)
- 7団体が披露 北上大乘神楽大会 15演目観衆を魅了 (岩手日日7.16)
- 夏休み 工作にするか?ミステリーか?
- 鬼の館でキッズに2つのプラン (週刊きたかみ7.21)
- いわて人間山脈②この地に舞う 鬼面の下には汗と涙
- 藤田明美さん (谷地鬼剣舞) (岩手日報7.22)
- 全日本バレーボール大会 鬼剣舞で選手鼓舞へ
- 和賀東中の16人練習に励む (岩手日日8.12)
- 芸能の"粋"観衆堪能 岩崎鬼剣舞が善意公演 (岩手日日8.15)
- 賢治童話の点字本も 伊藤卓美さん (東京) が木版画展 (岩手日日9.21)
- 魔神の姿万国共通 13カ国の仮面一堂に 鬼の館特別展 (岩手日報10.7)
- 遍路経験と隠し念仏 門屋光昭氏が講話 (週刊きたかみ10.27)
- 各施設では避難誘導が一番重要 消防署 避難訓練から (週刊きたかみ12.8)
- 祖霊の鬼に守られ入館者5万人に 後免町鬼剣舞、ロボット鬼剣舞も祝福 (週刊きたかみ11.7)
- こけしに映る匠の魂 故佐々木さんの遺作展示
- 伝統と創造性が融合 (岩手日報12.17)
- 「偽」は許さん!ヒーローの初夢
- 鬼丸くん新鮮さでまつりPR (岩手日報1.7)
- 児童たちが熱心に 岩崎鬼剣舞の踊り学ぶ (岩手日日1.13)
- 冬休みの思い出 しめ飾り作り 初春そして世界平和を祈る児童 (週刊きたかみ1.26)
- 「福はうち、鬼もうち」福豆鬼節分会
- 催し多彩に邪気払い (岩手日日2.4)

逸脱した宇宙と鬼の空想

千田一幸

イーハートブ宇宙実践センター副理事長
ライター・週刊きたかみ編集長

一般的に宇宙はビッグ・バンから発生したとされる。約150億年前に爆発し、ひたすら膨張している宇宙という理論がいまの段階では正しいとされている。NASAの宇宙背景放射観測衛星WMAPの観測結果では、約137億年前までの数字が出ている。問題点も指摘され、ビッグ・バン理論に加えて、インフレーション理論(*1)も提唱されているようだ。

ではどうして爆発が起こったか。

まず、密度がある。密度が無窮大となる特異点があり、その瞬間、物質の粒子と輻射粒子つまり光子が生じ、高密度の中から粒子や反粒子が作られたり、消滅したりしながら膨張を続けた。相互消滅に至らなかった粒子が物質を作り、宇宙ができた。それから次第に形を整えて行き、光も宇宙を進むようになった。と生半可に書くが、分かったようで、何一つ分からないというのが率直な気持ちである。

しろうととして面白いのは、例え、荒唐無稽だとしても、宇宙の果てや別の宇宙があるという考えだ。あらかじめ断っておくが、決して科学者は口に出さないし、興味もないだろう。けれど、人間として生きてきて、実は全く別次元で「個」としての存在があったらそれもなんともいえない興味がある。科学ではない異端の部分への主観的興味である。

膨張宇宙を考える時、風船に例えられる。風船に息を吹き込むと表面の各点が次第に離れる。つまり、銀河が遠ざかることになる。これは分かるような気がするが、ではその表面に何があるのか誰しもが疑問に思うだろう。もしあるのだとすれば、言葉としても別の宇宙ということになる。ただ、その宇宙は私たちが考える宇宙と同様とは限らない。

平行宇宙(*2)という「空想」的考え方があるそうだが、これは現宇宙で起こる一切の事態に、全く別の事態(自体)があるという想像である。となれば、常に別の未来が生ずるのだが、ただ一つの宇宙よりはイマジネーションとしても壮大な物語が生じるようで、わくわくする。

さてこの宇宙は膨張している。このままひたすら膨張すればどうなるか。誰しもが興味を持つが、現時点では宇宙は平坦な時空であるため、永遠に広がり続けるとされている。これも実は結局熱的死により安定化するのだそうだ。

聞いたことがあると思うが、もう一つビッグ・クラッシュ(*3)(大収縮)がある。これはもしこの宇宙が閉じているものだとするならば、ある時点で膨張から収縮に転じ始め、それが続いてついには潰れるというのがビッグ・クラッシュだ。ここでは、物質のみならず、空間や時間も消滅する。平行宇宙がなければまた無に戻るだけの話だが。

宇宙の死滅とブラックホールの相似を考えると、荒唐無稽と知りつつ、宇宙創成につながる気もしないでもない。なぜなら、ブラックホールはそれ自体を作ったあらゆる物質が「ある」けれども「ない」状態まで高密度になり、密度が無窮大になる特異点で姿がなくなる。そこからビッグ・バンに至るとしても、ヘンな話ではない。一切の銀河がブラックホールに飲み込まれ、無の状態に近づく。それが宇宙の揺籃になりそうだ……?

宇宙と一体化の考え

おおかたの宗教ではその教え自体が宇宙そのものを表現し、人間や生きとし生けるあらゆるものを包括する。宇宙はあらゆる存在の「法」自体を属性として持ち、法は宇宙と同化する。仏教でも、法身は真理を現し、同時に宇宙は仏陀そのものであるとする。つまり宇宙たる法身に守られるのが一切であろうか。言い換えれば、宇宙の秩序だった活動が仏の働きになる。

けれど、人間にはそのほとんどを理解することは不可能なため、われわれのような凡夫は修行や教えを守る戒律が強く求められる。とはいえ、常に迷い、欲に踊らされ、森羅万象・生々流転する現象に彷徨するのが性癖のようで、ついに「悟り」なるものを得ることもできない状況のまま人類史を歩んで来る以外になかった。

多くの教義のように、人間が宇宙の一部であり、その体现者が仏や神であるのなら、人間は決して、仏や神あるいは宇宙と隔絶している訳ではないことになる。自然と一口に言うてしまうが、自然自体が宇宙の法則に従っているのであり、自然に生きることは宇宙の法則を遵守することに他ならない。

周知のように、仏陀は苦行を経て悟りに至ったのだが、結局は極端な苦行も快樂も何物でもなく、調和のある中道こそ涅槃の道に入ると説いた。ジャイナ教では苦行実践を最高としたが、どっちに転んでも悟りは意思と関係なく、必然を知ることなのだろう。ヒンズー教などでは、最高の神と一体化するのが解脱と解釈しているようだし、自己は自己を離れ、自己を一体化したものとみなすのが解脱。限定はそこにはなく、すべてが一体化であるらしい。さらに言い換えれば「私という中での時間と空間構造の理解」とでもいえようか。宗教学者や民俗学者の一部は、人間の宗教文化による知恵・思考が現世と他界とを分離させた結果、一つであった時空が分離してしまったとする考えもあるようだ。

宇宙と身体の世界を接しながら、それぞれの教義などが相互に侵犯したがゆえに、不必要な摩擦が生じ、教義論争から他宗教を許容しない狭量な面が強調されてきたようにも思う。しかし、時間も空間もそれぞれの神・仏と一体化しているのだとすれば、教義や人間、あるいはもっと狭隘にすれば信者と全くといて関わりなくあり続けている。そこには宗教文化のもたらす人間の差別化あるいは分断、宗教自体の争いもあり得ない。

と、ここまで書いてきて、どうしても考えざるを得ないことがある。広大無辺、膨張する宇宙の中に「閉じ込められた」、過去・現在・未来に現出したすべての存在はどこから来て、どこへ行くのか。あるいは、現在どこにあるのかと。「出生以前」「出生」「死」「死以後」の疑問が出てくるばかりだ。

「時間対称宇宙」という概念があるそうだ。いうまでもなく正当理論ではない。科学者からは相手にされない。宇宙膨張が制動され、内側に収縮して崩壊。新しいサイクルに入り、また、新ビッグ・バンが起こるといって「振動宇宙」説の一つで、興味を引くのは時間が逆方向に動き、あらゆるものが後退、時間が戻るといふ説だ。その中でも、全宇宙史が繰り返される、未来から過去へ戻るといふ発想がなんともいえない。

死んで、骨になっているのが、蘇生し、次第に若くなって誕生に至り、最後に胎内に戻り、受精以前の無に戻るというのだ。いうなれば因果律の逆転であり、過去が閉鎖され、未来を思い出す。現実人間が今の因果律に束縛されているにしても、過去はただ思い出すだけであり、未来は閉じられている。そして、過去のやり直しはできない。

時間対称でも、時間が逆転するだけで、何も変わらない。そこには未生以前、あるいは既知の意識が保障されないからだ。

いつも時を遡って考えさせられるのは、宇宙の誕生についての「リグ・ヴェーダ」の神話と、時代を経て前期ウパニシャッド哲学に至るまで、神話を超越した、有も無も超越した唯一なるものの存在に考えを上らせたことである。「ナーサディーヤ讃歌」では既に人格神を消滅させ、自らの熱で生まれた無から有への宇宙創造を説く。無と有は対立する観念だが、実は表裏一体の関係になるようだ。古代の思惟がどのような根底から出発したのか定かではないが、宇宙の起源の意味をなぜ人は欲したのか。それもまた興味を引く事実である。

鬼はその意味で宇宙そのものでもあろうか。中国では鬼や鬼神が人間の死霊を示す場合もあるが、天地万物の諸霊も意味する。鬼神は人間の善悪を監視して神である上帝に報告する。神々と鬼と鬼神で構成されている宗教もあり、考えようによっては、死から始祖霊に再生する民間信仰の精神性そのものが、刹那の存在である人間の宇宙への憧憬ではなからうか。鬼はその体現かもしれない。

了

(※1) インフレーション理論：

ビック・バン理論を補完する初期宇宙の進化モデル

(※2) 平行宇宙：

宇宙の多重創生論によれば、マザーユニバースから生じたチャイルドユニバースが数多く生じ、それぞれの宇宙が相互に進化発展を遂げていくモデルからなる宇宙のこと。

(※3) ビック・クランチ：

予測される宇宙の終焉の一形態。現在考えられている宇宙モデルでは、宇宙はビック・バンによって膨張を開始したとされているが、自身のもつ重力によっていずれ膨張から収縮に転じ、宇宙にある全ての物質と時空は無次元の特異点に収束すると考えられる。しかし、さまざまな観測結果から、ビック・クランチは起こらずに宇宙は永遠に膨張し続けるという考えが有力となっている。

(フリー百科事典Wikipediaより)

鬼の里だより

●企画展・特別展

- <特別展> 「魔神・悪魔とされる鬼神たち」
10/6 (土) ~ 12/2 (日) 4,524人
- <特別展> 「匠の伝承展」
12/15 (土) ~ 2/17 (日) 4,029人
- <特別展> 「力丸館長追悼展」
2/24 (日) ~ 4/6 (日) 開催中

●鬼っこわんぱく講座

- <鬼剣舞体験>
1/12 (土) 1/19 (土) 1/26 (土) 1/27 (日)
2/2 (土) 2/3 (日) 連続6回講座 参加者 24人

●鬼の館芸能公演

- 10/28 (日) 後免町鬼剣舞保存会
黒沢尻工業高校ロボット鬼剣舞
見学者165人

●鬼ッズ・プレイミュージアム

10/1 ~ 3/31

- ・張り子面づくり (来館者) 63人
- ・出前講座 (6回) 110人
- ・出張講座 (水沢商業高校) 25人
(胆江地区勤労者教育文化センター) 38人

<冬休みワークショップ>

- ・お正月しめ飾り作り (1回) 22人
- ・鬼剣舞面作り (2回) 40人
- ・切り絵鬼剣舞作り (4回) 101人

●鬼学講座

- 第5回 (11/11) 受講生 35人
「仏法から見る死の儀礼儀式」黒石寺住職
藤波洋香氏

●福豆鬼節分会

- (2/3日) 入場者 1,551人

利用案内

開館時間 午前9時から午後5時まで。
なお、入館は午後4時30分まで。

- 休館日**
- ・12月~3月の月曜日
 - ・12月~3月の国民の祝日の翌日
(土・日・月曜日の場合は火曜日)
 - ・館内整理日 (11月27日~11月30日)
 - ・年末年始 (12月28日~1月4日)
 - ・臨時休館日 (5月27日、8月26日)

一般	350円 (300円)
高校生	240円 (180円)
小中学生	170円 (120円)

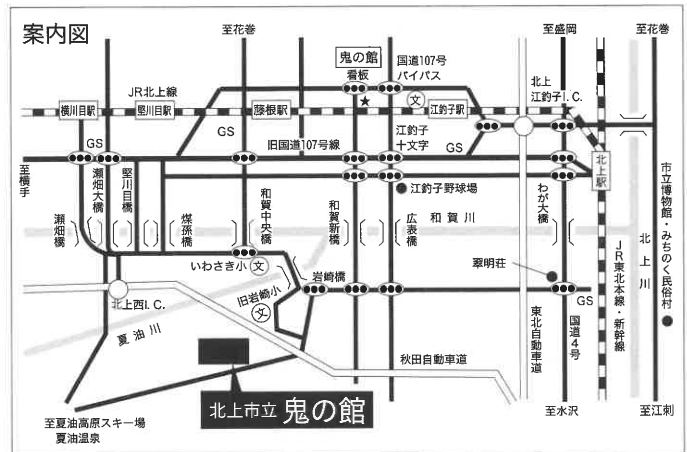
() 内は20人以上の団体料金。

下記の場合、市内小中学生は入館料が免除になります。

- ・毎週土・日曜日
- ・学習活動で申請利用する時

交通案内

- ・JR北上駅西口よりバスで25分。
煤孫経由横川日行、瀬美温泉行「岩崎橋」
下車徒歩10分。
- ・JR北上駅より車で20分。
- ・東北自動車道「北上江釣子I.C.」、秋田自動車道「北上西I.C.」よりともに車で15分。



北上市立鬼の館だより

第28号 2008.3.31

編集・発行 北上市立鬼の館

〒024-0321 北上市和賀町岩崎16地割131番地
TEL 0197(73)8488 FAX 0197(73)8508